

第3学年 社会科学学習指導案

| | |
|-----|------------------------|
| 日 時 | 平成20年10月9日(木) 公開授業 I |
| 場 所 | 久慈市立侍浜中学校 3年B組教室 |
| 生 徒 | 3年B組(男子10名 女子12名 計22名) |
| 授業者 | 教諭 菊地 正則 |

1 単元名 暮らしを支える経済

2 単元について

本単元は、学習指導要領の内容「(2)国民生活と経済」の1つとして取り上げるものである。ここでは、身近な消費生活を中心として経済活動の意義を理解させるとともに、流通や生産の仕組み、金融の働きについて理解を深めさせることをねらいとしている。具体的には、「経済」とは何か、消費と貯蓄について、消費者の権利と保護、商業の今日的状況、価格の決め方、企業の仕組みとはたらき、銀行の役割などについて取り上げる。

さらに、課題を解決し、生活の向上を図るために必要なこととして、個人や企業などの社会的責任をも含めて考えさせること、また、社会生活における職業の意義と役割について理解を深めさせる場である。

3 生徒について

社会科の授業については真剣に取り組み、発言しようとする生徒が多い。経済活動に関しては、これまでに地理的分野、歴史的分野の学習でも取り扱ってきているが、経済学習と直接的につなげるところまでは学習を深めていない状況にある。現代社会で生活している生徒たちは「消費者」であり、家によっては「生産者」という立場から経済を日常的に学んでいる。また、マスメディアを通じて情報を得ている部分も多く、イメージを持って取り組むことができると考える。自らの生活体験、あるいはマスメディアなどを通じて得ている知識をもとに政治単元の学習でも高い関心を示し、意欲的に参加する姿が見られている。一方で地理的分野、歴史的分野に比べ、難しさを感じている生徒も見受けられる。そこで、より具体的な資料や発問の工夫、グループによる話し合い活動等を取り入れて、意見交換をさせながら授業を進めてきている。本単元でも、この点を配慮しながら授業を展開していきたい。

4 指導について

本単元は経済単元の導入にあたる場面として、現代の身近な消費生活を中心に経済活動の意義を理解させるとともに、流通の働きや生産の仕組みについて、また、消費者の権利と保護について、具体例を挙げながら理解を深めさせたい。

また、キャリア教育の観点から、本時においても課題解決型の授業形態をとりながら、情報活用能力の中の「職業理解能力」と意思決定能力の中の「選択能力」を高めさせたい。具体的には、様々な資料や、地域の事業主の話をもとに自らの社会的な判断をより高めさせたいと考える。また、生産者の思いをとらえさせることにより、将来の自分の生き方にそれを生かそうとする能力を養わせたいと考える。

5 単元の目標

〈社会的事象への関心・意欲・態度〉

個人や企業の経済活動に対する関心を高め、意欲的に追究し、経済活動について考えようとする。

〈社会的な思考・判断〉

社会における企業の役割と社会的責任について考察し、個人や企業の経済活動のあり方をさまざまな立場から公正に判断するとともに、国や地方公共団体のあり方について判断することができる。

〈資料活用の技能・表現〉

個人と企業の経済活動に関するさまざまな資料を収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して活用するとともに、追究・考察した過程や結果をまとめたり説明することができる。

〈社会的事象についての知識・理解〉

経済活動の意義や市場経済の基本的な考え方や生産の仕組みのあらまし、金融の働きについて理解し、その知識を身に付けることができる。

6 単元指導計画(1 1 時間)及び評価規準

| 節 | 項 | 時間 | 学習内容 | 評価規準 |
|---------------------|----------------|-----------------|------------|---|
| 第3章 わたしたちの暮らしと経済 | 1 暮らしを支える経済 | 1 | 暮らしをみつめて | 〈思〉 毎日の暮らしと経済活動との関わりについて経済の三主体を中心に考えることができる。 〈知〉 財やサービスの供給と消費活動との関わりから経済をとらえ、理解することができる。 |
| | | 1 | 消費と暮らし | 〈関〉 所得と支出の関係について、意欲的に取り組むことができる。 〈知〉 所得と支出の関係について理解することができる。 |
| | | 1 | 消費者の自立 | 〈関〉 消費者の権利の保障について、意欲的に取り組むことができる。 〈知〉 消費者の権利を守るために行われている取り組みや、国や地方公共団体がしている施策について理解できる。 |
| | | 2/ 2 (本時) | ものの価格の決まり方 | 〈思〉 需要と供給と価格の関係について、考え、説明できる。 〈知〉 価格、市場、需要と供給、均衡価格について理解することができる。 〈思〉 生産者の生産物(消費者)への思いが価格に反映されていることに気づく。 〈思〉 自分にとって必要なものを選択する目を持つことができる。 |
| | | 1 | 市場は万能ではない | 〈思〉 生活のどこまでを市場に任せるべきか考えることができる。 〈知〉 寡占と独占、公共料金の意義と種類を理解することができる。 |
| | | 1 | 企業はさまざま | 〈関〉 中小企業のものづくりの自信と誇りについて関心をもつことができる。 〈知〉 企業活動から、生産と流通の仕組みや資本主義の仕組みを理解することができる。 |
| | | 1 | 会社のしくみと役割 | 〈思〉 企業の社会的責任について考えることができる。 〈知〉 株式会社の仕組みと役割を理解することができる。 |
| | | 1 | 資金の貸し借り | 〈関〉 銀行の役割について関心をもつことができる。 〈知〉 金融のはたらきと、日本銀行の役割について理解することができる。 |
| | | 1 | 変わる産業 | 〈思〉 グローバル化する経済に対し、日本企業や産業のあり方について考えることができる。 〈知〉 日本の産業構造の変化と、経済のソフト化・サービス化について理解することができる。 |
| | | 1 | 資源をむだなく | 〈思〉 食料との関わりから農林水産業の役割について考えることができる。 〈技〉 日本の環境問題への取り組みについて調べ、まとめることができる。 |

7 本時の指導

(1) 評価規準(目標)

〈社会的な思考・判断〉

- ・生産者の生産物(消費者)への思いが価格に反映されていることに気づく。
- ・自分にとって必要なものを選択する目を持つことができる。

(2) 展 開

| 段階 | 学習内容 | 学習活動 | ○指導上の留意点 ・資料 ☆評価の観点 |
|--|--|--|--|
| 導入 8分 | 1 前時までの想起 | 1 「市場価格、均衡価格」は、「需要」と「供給」の関係で決まることを確認する。 | ○学習課題を提示し、本時の方向づけをさせる |
| | 2 学習課題の設定 | 2 「国内産」と「外国(中国)産」のしいたけを提示し、その違いを確認し、そこから学習課題を設定する。 | |
| 国産の農産物 [しいたけ] の値段が外国産より高いのはなぜだろう？ | | | |
| 展 開 30分 | 3 課題に対する予想 | 3 課題について予想を発表する。 ・人件費が高いから・品質が良いから・味が良いから・安全だから・丁寧に作っているから・立派な施設で作っているから など | ○課題について、できるだけ多くの予想をさせる。 |
| | 4 予想に対する検証 | 4 予想について検証する。 ・人件費 ・品質 ・安全性 ・施設 | ・日本と外国の人件費の比較 ・海外で売れる日本の農作物 ・農作物の安全性に関する新聞記事 ・日本と外国の施設の差 ○既習事項や生徒の身近なことから検証できる資料を提示する。 |
| | 5 生産者からの話 [越戸きのご園 越戸さん] | 5 生産者がどんな願いでしいたけをつくっているのかを聞く。 | 【手だて①-A：職業理解能力】 ・VTR |
| ま と め 12分 | 6 感想記入と発表 | 6 生産者からの講話から考えたことをまとめる。 | ☆〈社会的な思考・判断〉 【手だて①-A：選択能力】 |
| | 【手だて①-B】「学習内容」と「働くこと」とのつながりを意識させる | | 生産者の思いが価格を動かす要因であることがわかるとともに、自分にとって本当に必要なものを選択する目を持つことが大切であることがわかる。 |

(3) 評価規準と具体の評価規準

| 観点 | 具体の評価規準 評価規準(方法) | 十分満足できると 判断する具体的状 況【A】 | おおむね満足でき ると判断する具体 的状況【B】 | 「努力を要する」と 判断される生徒への 支援 |
|-----------|---|---|------------------------------------|---|
| 社会的な思考・判断 | 生産者の生産物(消費者)への思いが価格に反映されていることに気づく。(記録用紙・発言内容) | 生産者の生産物(消費者)への思いが理解でき、それが価格に反映されている場合がある理由を説明できる。 | 生産者の生産物(消費者)への思いが価格に反映されていることに気づく。 | 検証資料等の振り返りから、生産者の生産物(消費者)への願いや思いに気づかせる。 |
| | 自分にとって必要なものを選択する目を持つことができる。(記録用紙・発言内容) | 商品選択する上での良い点を理解し、根拠を持ちつつ、説明できる。 | 自分にとって必要なものを選択する目を持つことができる。 | 机間巡視をし、自分にとって必要なものを選択する目を持つよう支援する。 |